

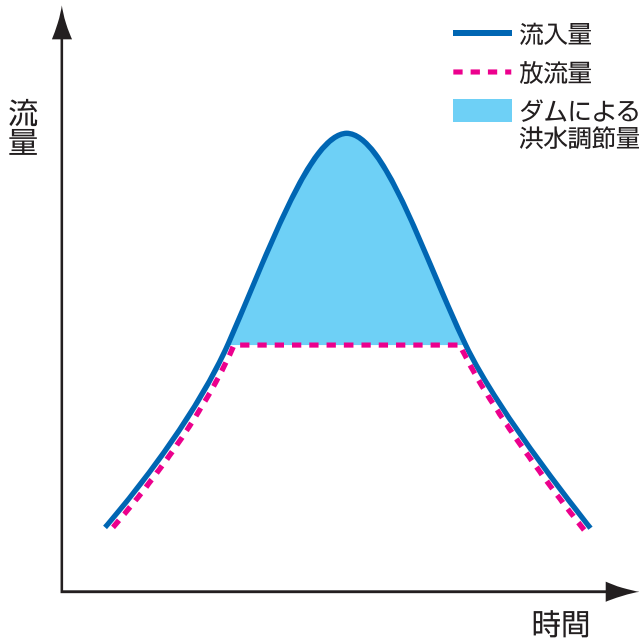
# ダムの洪水調節方法

洪水を調節する方法には、主に次の4つがあり、河川の洪水特性と下流河川の改修状況によって決めています。自然調節方式以外のダムは、ゲート操作により放流量を調整します。

県土整備部が管理する21ダムのうち、生野ダム、青野ダムは、一定量放流方式、引原ダムは、不定率放流方式、その他は、自然調節方式となっています。

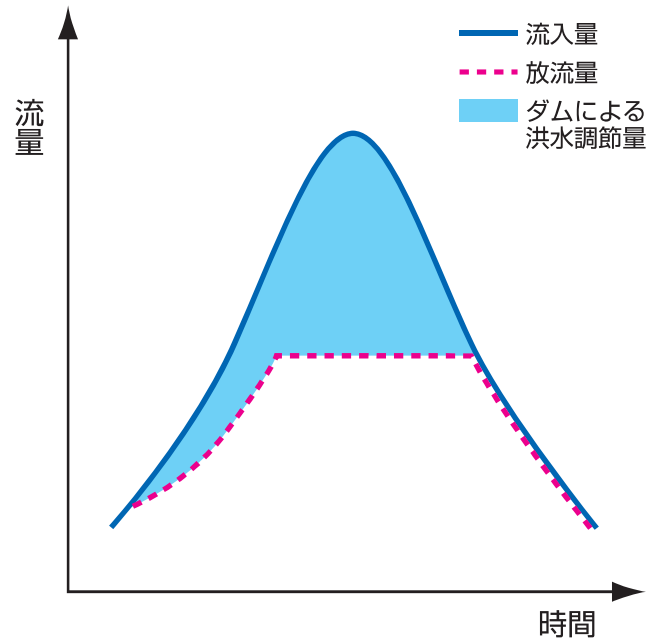
## ■一定量放流方式

一定量以上の放流を行わず、一定量以上の水量はダムに貯留する。



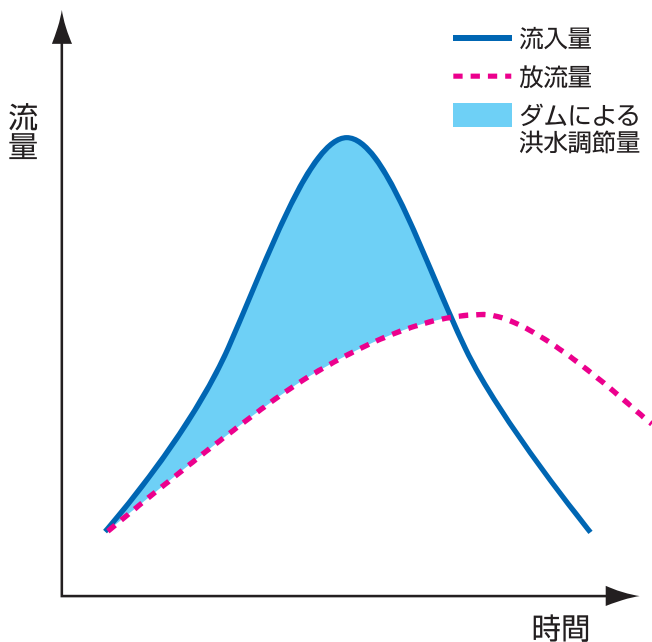
## ■一定率一定量放流方式

流入量に一定の率をかけた量を放流し、最大放流量になった後は、放流量を一定にする。



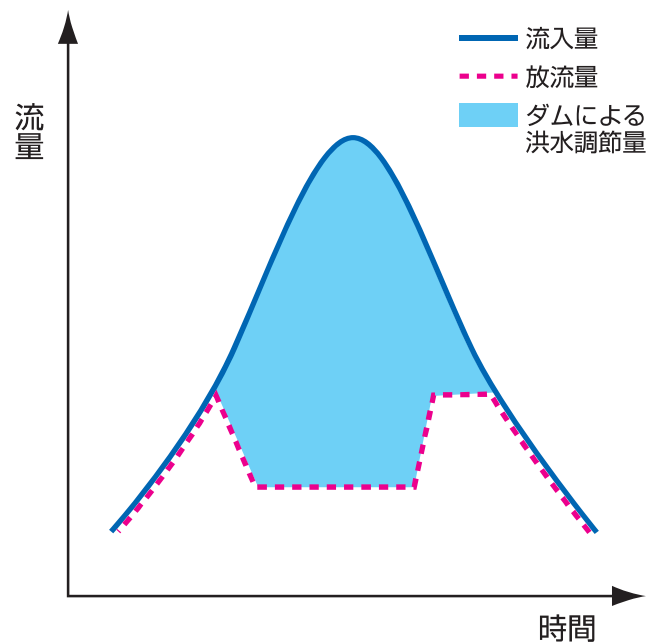
## ■自然調節方式

常用洪水吐きの大きさとダムの貯水位で放流量が定まる。



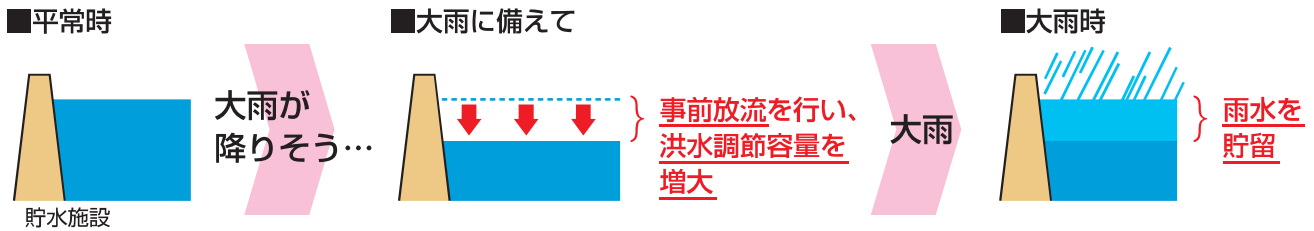
## ■不定率放流方式

下流河川の洪水が最大となるときに合わせて放流量を制限し、ダムに貯留する。

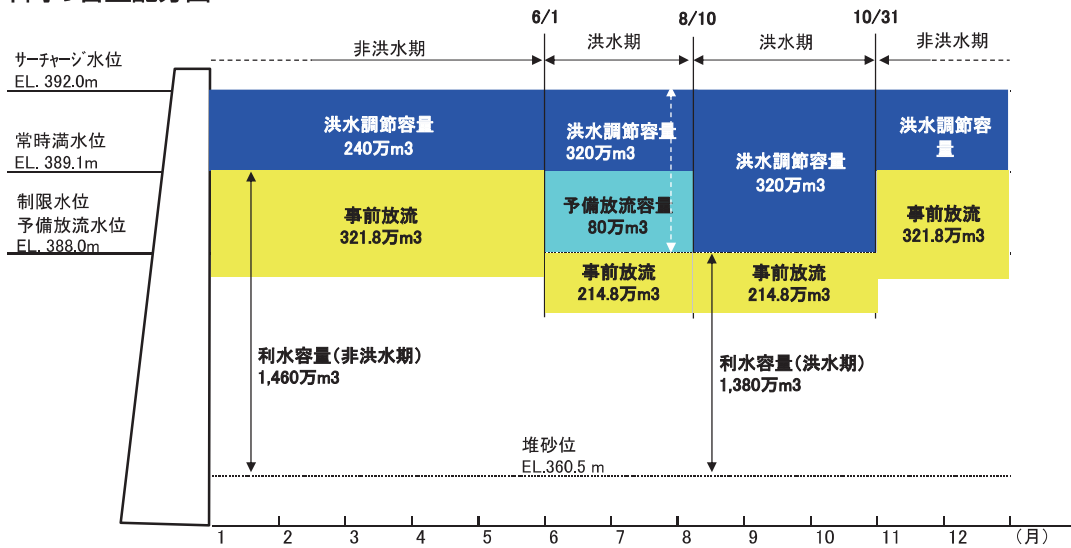


# ダムの有効活用への取り組み（事前放流）

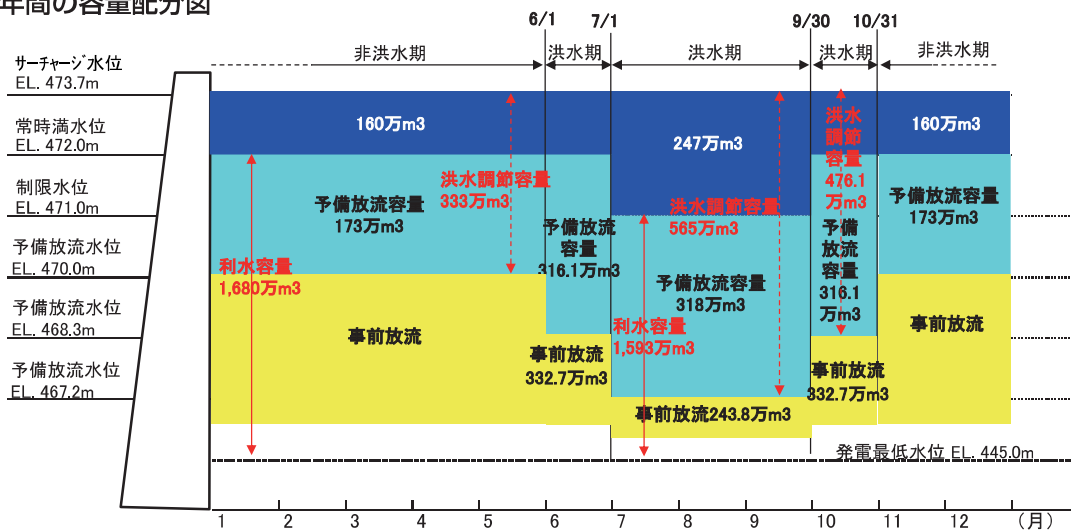
近年の集中豪雨の発生頻度の増加に対応するため、平成25年度から生野ダム、引原ダムにおいて、共同事業者の利水事業に支障を与えない範囲で、利水容量の一部を洪水前に放流し、一時的な洪水調節容量の増大を図る「事前放流」の取り組みを行っています。



■生野ダム 年間の容量配分図



■引原ダム 年間の容量配分図



※予備放流容量：通常時は、利水容量として使用し、洪水前に放流することで洪水調節に使用する容量（洪水調節容量、利水容量のどちらにも含まれる容量）

このほか青野ダムでは、予備放流の拡大に向けた事前放流の試行の取り組みを行っています。